

## 編集後記

小腸のX線、内視鏡診断が新しい方法論を見出し、著しい進歩を遂げはじめから10年を越えた。そしてこの数年間は、ほぼ plateau に達し、もはや手技としては進歩すべき余地はないようにも思われる。

しかし、小腸の“診断学”に取り組んでいる施設は限られ、雑誌の特集、学会シンポジウムの顔ぶれは相も変わらぬ10年前からの常連で占められているのが現状であろう。

今回も主題は常連による成績の呈示や解説をお願いしたが、研究欄には小腸の臨床研究についての種々のテーマが盛り込まれている。川村氏の内視鏡検査法およびその後のX線造影法は極めてユニークで、今後の発展、改良が期待されよう。牛尾氏は実験動物では古くから種々のターゲットとされてきたパイエル板について、ヒトでのアプローチの方法論を呈示された。成功すれば、また新しい研究目標が開けるものと思われる。田中氏、山本氏は内視鏡的生検標本から得られた材料を駆使して、それぞれのテーマと取り組んでおられる。内視鏡、殊に生検標本を利用した臨床研究は、今後本邦独自のものとして発展してゆくことが予想されるが、その方法論は基礎学者の異論をはさませぬ確たるものでなければならぬ。

いずれにしても小腸診断学の問題点は方法論の開発と共に“普及”が大きなテーマとなろうが、若い人々の奮起とそのエネルギーの開花を待ちたい。

<八尾 恒良>

## <編集> 早期胃癌研究会

# 胃と腸

発売予定 8月2日  
定 価 1,700円

8月号(第20巻・第8号)予告

### 主題／大腸癌の発育・進展

|                  |                              |             |         |
|------------------|------------------------------|-------------|---------|
| 序 説              | 大腸癌の発育・進展                    | 阪医大・2内      | 大 柴 三 郎 |
| 主 題              | 実体顕微鏡および臨床からみた早期大腸癌の発生・発育・進展 | 都がん検診センター   | 西沢 護・他  |
|                  | Retrospective にみた大腸癌の発育・進展   |             |         |
|                  | —X線像による遡及的検討                 | 国立がんセンター・放診 | 牛尾 恭輔・他 |
|                  | Retrospective にみた大腸癌の発育・進展   | 愛知県がんセンター・内 | 松浦 昭・他  |
|                  | 大腸癌の発育・進展に関する臨床病理学的検討        | 名市大・1内      | 横山 善文・他 |
| 主題研究             | 大腸癌の組織発生とその早期における発育過程        | 筑波大・病理      | 中村 恭一・他 |
| 座談会              | 大腸癌の発育・進展                    | 順天堂大・消内     | 白壁 彦夫・他 |
| Refresher Course | この症例にみる診断過程のポイント             | 京都第一日赤・2内   | 多田 正大・他 |
| 入門講座             | Ⅲ. 膝                         | 京府医大・公衆衛生   | 川井 啓市・他 |
| 今月の症例            | 大腸早期癌                        | 千葉県がんセンター   | 間山 素行・他 |

(編集頁の都合で掲載論文が若干変更になることがあります。)

(担当) 長谷川・窪田・尾島・大竹